

令和4年(1～12月)における火災の概要(概数)

防災情報室

1 総出火件数は、36,375件、前年同期より1,153件の増加

令和4年(1～12月)における総出火件数は、36,375件で、前年同期より1,153件増加(+3.3%)しています。これは、おおよそ1日あたり100件、14分ごとに1件の火災が発生したことになります。また、火災種別でみますと、次表のとおりです。

令和4年(1～12月)における火災種別出火件数

種別	件数	構成比	前年同期比	増減率
建物火災	20,185	55.5%	636	3.3%
林野火災	1,244	3.4%	17	1.4%
車両火災	3,414	9.4%	▲98	-2.8%
船舶火災	78	0.2%	15	23.8%
航空機火災	2	0.0%	2	—
その他火災	11,452	31.5%	581	5.3%
総火災件数	36,375	100%	1,153	3.3%

2 総死者数は、1,446人、前年同期より29人の増加

火災による総死者数は、1,446人で、前年同期より29人増加(+2.0%)しています。また、火災による負傷者は、5,719人で、前年同期より286人増加(+5.3%)しています。

3 住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)数は、922人、前年同期より44人の減少

建物火災における死者1,168人のうち住宅(一般住宅、共同住宅及び併用住宅)火災における死者は、1,012人であり、更にそこから放火自殺者等を除くと、922人で、前年同期より44人減少(-4.6%)しています。

なお、建物火災の死者に占める住宅火災の死者の割合は、86.6%で、出火件数の割合54.6%と比較して非常に高いものとなっています。

4 住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)の7割以上が高齢者

住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)922人のうち、65歳以上の高齢者は692人(75.1%)で、前年同期より24人減少(-3.4%)しています。

また、住宅火災における死者の発生した経過別死者数を、前年同期と比較しますと、逃げ遅れ407人(65人の減・-13.8%)、着衣着火36人(1人の減・-2.7%)、出火後再進入16人(5人の増・+45.5%)、その他463人(17人の増・+3.8%)となっています。

5 出火原因の第1位は、「たばこ」、続いて「たき火」

総出火件数の36,375件を出火原因別にみると、「たばこ」3,208件(8.8%)、「たき火」3,140件(8.6%)、「こんろ」2,773件(7.6%)、「放火」2,235件(6.1%)、「電気機器」1,958件(5.4%)の順となっています。